成木小学校創立30周年記念　成木今昔物語　⑨

2026.1.8
文責　鈴木　基

＜成木の発展１　成木石灰②＞

１　成木での石灰作り

成木の石灰作りは八王子石灰とも言われ、八王子城で働いていた人達が製法をもたらしたようです。その製法は窯（かま）に特徴がありました。「立窯」「壺窯」と称する焼成炉があり、成木では本窯と呼ばれていました。造りと製法について本窯を例に説明していきます。

（１）窯の造り　「本窯」

① 高さ数間の石垣の正面に燃料用材を積み上げる。
② 石垣と並行に材木を垂直に立てる。
③ 外側から支柱で支える。
④ 石垣と垂直にした材木の間に薪を積む。
⑤ さらにその上に 300～500 束のそだ（注１）を石垣の高さまで積む。
⑥ そだの上に石灰石をピラミッド状に積載する。

（２）製法など

① 生産時期：農作業の忙しい時期が終わった晩秋から初春にかけて一年に一回生産
② 石 灰 石：山地内に点在する鉱床から採掘し、２０㎝以下に破砕
③ 焼 き 方：火をつけると、９００℃以上にし、含まれている炭酸ガスを放出させていく。
４時間程度で石灰石が崩れ始めるので、石灰石を追加していく。途中で半焼けの石を積み直す。１０日程度焼き続ける。
④ 処　　理：出来上がったものを『生石灰』と言い、水をかけて『消石灰』にする。
⑤ 出　　荷：できた消石灰をフルイにかけ、俵に詰めて出荷する。

２　窯の再現

成木地区の成木石灰保存会が、平成１０年に成木石灰の再現を試みたことがあります。『成木での石灰生産が消滅してから約１００年が過ぎたが、江戸時代における成木の繁栄を呼び起こそう』と、成木５丁目（久道）に「本窯」を復元しました。

実際に火を付けて燃やすことはなかったようですが、平成１０年（1998）５月６日は、修祓（注２）やお囃子（おはやし）、神代太鼓などの演奏もあり、盛大だったようです。

（注１）そだ：細い木の枝を集めて束状にした資材　（注２）しゅばつ：おはらい

【参考】石灰工業の技術の変遷　園田　博男 2002　　青梅市 web
東京都青梅市成木地区における石灰焼き　角田　清美 2018
青梅市史資料集第４８号　都下村落行政の成立と展開 1998
成木石灰と青梅街道　発行年筆者不明
郷土博物館講座　青梅街道の成立と成木石灰　1989（講師：角田　清美・山下　哲也）

【写真提供】割烹　うらしま
【監修】地域講師　若林　博司　　成木五丁目自治会長　井上　哲男